

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料5

協議会名： 東海市地域公共交通会議

令和 年 月 日

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合株式会社	(1)東海市循環バス中ルート③ 聚楽園駅前を起終点とする 23.9km (2)東海市循環バス中ルート④ 太田川駅前を起終点とする 23.9km (3)東海市循環バス南ルート⑤ 加木屋デイサービスセンター を終起点とする 22.8km (4)東海市循環バス南ルート⑥ 加木屋デイサービスセンター を終起点とする 22.3km ※車両減価償却費の補助あり	より利用しやすく充実した公共交通となるよう、地域内フィーダー系統のルート改正やダイヤの見直しに向けた協議を実施した。 ダイヤ改正について、高齢者に対するバスの乗り方教室に併せて概要説明の実施を検討していたが、コロナ禍による影響を受け、中止となった。	A 地域公共交通会議内で、生活確保維持改善計画や改善事業について協議し、目標や効果等も確認しながら、委員の了解を得て策定・実施している。 また、事業終了後には同会議で報告を行い、今後の課題や、目標についても協議を行っている。 このことから、会議内では事業が適切に実施されていると考える。	B 北ルート ※フィーダー補助なし 循環バスの利用者数 目標：16万人 実績：13万5千人 中ルート 循環バスの利用者数 目標：14万2千人 実績：12万2千人 南ルート 循環バスの利用者数 目標：14万人 実績：11万4千人 【総括】 循環バスの利用者数 目標：44万2千人 実績：37万1千人 【目標が達成できなかった理由】 新型コロナウイルス感染症の影響により、R02.03月以降利用者が著しく減少したため。	R01.10～R02.9のコミュニティバスの年間利用者数は37万人であり、コロナ禍による情勢の変動もあったことから、前年実績に比べて7万2千人減少している。 R02.10から改正を行う循環バスの改正案については、広報誌や閲覧板等を利用して周知を行い、パブリックコメントを実施した。改正に伴う朝夕ダイヤの新設に併せて、通勤通学利用者をメインターゲットとして、定期券制度の導入を予定している。 また、バスロケーションシステムの導入に伴い、GTFS 化を実施予定。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	東海市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東海市内には、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅と知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により、南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市と太田川駅を連絡する独自路線バス(上野台線・横須賀線)により、東西の公共交通基幹軸が形成されている。これらに対し、市内の各拠点及び公共施設や住宅地域を結びながら東西・南北の公共交通基幹軸を地域的に補完し、地域内フィーダー交通という形で、循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。</p> <p>地域内フィーダーである循環バスの状況として、R01.10～R02.9中の乗車人数は、37万1千人とコロナ禍の影響もあり、落ち込んだ。また、平成25年度に実施したバス利用者及び市民アンケートでは、市民の82パーセントがバス交通は必要であると回答している。</p> <p>しかし、地域間幹線系統である横須賀線については、沿線にある高校生の利用減少等の理由から収益が伸び悩み、平成28年度(H28.4～H29.3)には一部路線が廃止となるなど、路線維持が難しくなっており、喫緊の課題となっていたが、近年利用者の増加が見られるようになってきた。</p> <p>本市の中心的交通結節拠点である太田川駅周辺には、東海市芸術劇場のような大型文化施設を始め、大学、商業施設なども整備されています。また、こうした施設に訪れる人だけでなく、2027年のリニア中央新幹線の開通にあわせて、新たな人の動きも生まれ、より一層の「にぎわい」が創出されることも予想される。</p> <p>バス交通については、今後も多くの人口流入が予想される本市にとって重要な公共交通であるため、今後も、平成27年度に策定した東海市地域公共交通網形成計画を推進しながら、利用者の利便性向上を図り、さらなる持続可能な公共交通体系の構築を目指しているところである。</p>